（様式１）

令和5年5月12日

富山県教育委員会教育長　殿

富山県立小杉高等学校
校長　亀　遊　知　子

令和5年度学校経営計画を別紙（様式2・3）とともに提出します。

令和5年度　学校経営計画

１　学校教育目標

校訓「自主」「創造」「明朗」、スクールモットー「The nearest duty」を掲げ、

ア　健康な心身を育み、自主自律の精神と実践力を養う

イ　思考力や判断力を伸ばし、世界を視野に進路を拓く応用、創造の力を養う

ウ　真理と正義を愛し、責任を重んじ、情操豊かで明朗な人間性を培う

ことを目指し指導の充実に努めている。

＜School mottoについて＞

本校創設の父「南原　繁」が好んで若者に贈った言葉。大切なことは、身近にある今やるべきことに全力を尽くすこと。学生であれば、学問、芸術、スポーツなどに打ち込み、豊かな人間性を培い、教養を身につけること。将来を悩んでばかりいては、前進はない。毎日の積み重ねが人間の価値をつくると、若者を励ました。

２　学校の特色

本校は、後に東京帝国大学総長となり戦後日本の復興や、6･3･3･4制等の戦後民主教育制度の確立に尽力した南原繁(当時射水郡長)の提唱により、大正８年に「農業公民学校」として開校し、令和元年度には創校百周年を迎えた。その間、多くの変遷を経て、平成７年度には普通科・農業科併設校から本県初の総合学科単独校(１学年５学級200人)に改編され、本年度は開設29年目を迎える。

教育課程では、２年次から進路に応じて「探究」、「美術･スポーツ」、「生活･ビジネス」の３系列を設定し、進路実現に向け基礎的な学力や技能等の向上に努めている。また、１年次の「産業社会と人間」を「キャリアデザイン」、２・３年次の「総合的な探究の時間」を「プロジェクトⅠ・Ⅱ」と位置づけ、３年間を見通したキャリア教育・進路研究を推進している。

部活動では、柔道部が毎年全国大会に出場し伝統校として全国屈指の活動を行っており、他にもハンドボール部、吹奏楽部等が活発な活動を行っている。

３　学校の現状と課題

学校全体で、ＩＣＴを活用したアクティブラーニング型授業を推進し、主体的・協働的に授業に取り組む生徒の育成に努めてきた。また、キャリア教育を計画的・継続的に行い、職業観や就業観を育み、進路意識の向上を図ってきた。しかしながら、自ら課題を見つけ、困難に果敢に立ち向かうことのできる生徒の育成にまだ課題が見られる。本年度は生徒の自己評価（小杉高等学校Graduation Policy）の結果を活かしながら、「小杉高等学校グランドデザイン」を基に各教育活動を通して、「身に付けさせたい８つの力（①実践力・②協働力・③探究力・④発信力・⑤創造力・⑥自主性・⑦人間関係形成能力・⑧自己管理能力）」を明確にし、その中で、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」の育成と涵養に努めることとする。

［令和5年度重点事項］

ア　基礎基本の徹底

将来の社会生活の基盤となる知・徳・体の基礎的・基本的な能力・態度等の確実な定着

イ　実効性あるキャリア教育の推進

主体性を引き出し、着実な進路実現を図る３年間を見通したキャリア教育･進路指導の充実

ウ　多様な進路実現に向けた学習機会の充実

ＩＣＴを活用したアクティブラーニング型授業の推進

エ　教員の指導力・学校の組織力の向上

実践研究の推進による教員の指導力・学校の組織力の向上

4　学 校 教 育 計 画

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th colspan="2">目標・方針及び計画</th></tr>
<tr><td rowspan="2">(1)</td><td rowspan="2">学習活動

重点１</td><td>目標</td><td>【重点：②協働力・③探究力・⑤創造力の育成】
・多様で効果的な学習活動を展開し、生徒の主体的な学びを引き出し、基礎学力の定着を図るとともに、専門性や課題解決能力等を育成する。</td></tr>
<tr><td>計画</td><td>〈教育課程〉
○２年次より「探究」、「美術・スポーツ」、「生活・ビジネス」の３系列を設定し、進路実現に向け系統性に配慮した選択科目を開設する。
○１年次の「キャリアデザイン（産業社会と人間）」に加え、２・３年次に「プロジェクトⅠ・Ⅱ（総合的な探究の時間）」を開設し、３年間を見通した継続的・計画的なキャリア教育を推進する。
〈学習指導〉
○学習目標を明確に示すとともに、<u>学ぶ意欲を高め主体的な学びを引き出す授業内容や授業方法を工夫</u>する。
○新学習指導要領に伴う観点別評価について研究を継続する。
○高大連携事業等を積極的に活用して、系列学習に深化と広がりを持たせ、専門性を高める。
○公開授業や教員研修を計画的に実施し、授業の質を高めるよう学校全体で取り組む。
○「学習と進路の自己診断シート」と「小杉高校ＧＰ」の評価を活用し、<u>生徒の学習がより主体的・自覚的なものになるように工夫</u>する。
○各教科の課題の整理や集約を行うとともに、家庭学習時間の増加を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(2)</td><td rowspan="2">学校生活

重点２

重点３</td><td>目標</td><td>【重点：①実践力・⑧自己管理能力の育成】
・基本的生活習慣の定着を図り、心身の健康を自己管理することができる生徒を育成する。
・集団の一員としての自覚を持ち、相手を思いやりルールを遵守する姿勢を育成し、互いに高め合える集団づくりを進める。
・身近な環境に関心を持ち、住み良い環境づくりのために積極的に行動する生徒を育成する。</td></tr>
<tr><td>計画</td><td>〈生徒指導〉
○集会時や登校時の呼びかけ指導等を通して、端正な身なりの徹底と挨拶の励行を図る。
○生徒会や自律委員会と連携し、家庭でのインターネットやスマートフォンの長時間利用が与える健康被害についての理解を深めさせる働きかけを継続して行い、ルールやマナーの遵守を促す。
○<u>社会生活の基盤となる基本的生活習慣（あいさつ、時間厳守等）の育成</u>を図る。
○個別面接などを通して生徒理解に努め、相互の信頼関係を深める。
〈保健指導〉
○生徒保健委員会と連携し、保健だよりや掲示物により定期的に情報提供や啓発を行い、<u>生活習慣と心身の健康との関係を自覚させ、自己管理能力の向上</u>を図る。
○ごみの分別点検や美化週間を通して環境保全意識を培い、自主的に環境を整えようとする態度を育てる。
○特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、個に応じた適切な指導を行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th colspan="2">目標・方針及び計画</th></tr>
<tr><td rowspan="2">(3)</td><td rowspan="2">進路支援

重点４

重点１</td><td>目標</td><td>【重点：③探究力・⑥自主性・⑧自己管理能力の育成】
・３年間を見通した計画的、継続的なキャリア教育や進路指導を行い、生徒一人ひとりが主体的に進路を選択し、進路実現を図るよう支援する。</td></tr>
<tr><td>計画</td><td>〈教育課程〉
○１年次の「キャリアデザイン（産業社会と人間）」に加え、２・３年次に「プロジェクトⅠ・Ⅱ（総合的な探究の時間）」を開設し、<u>３年間を見通したキャリア教育を計画的・継続的に推進</u>する。
〈キャリア教育・進路指導〉
○１年次の職場体験学習や２年次の県外進路研修等、職業観や就業観を培い、<u>進路意識を高める活動をより効果的に実施</u>する。
○各学年・学期等の時期に応じた重点課題を明確にし、<u>個別面談を継続して行うことにより、個に応じた的確な指導を行う</u>。
○教員による高大接続改革に係る研究を積極的に進め、生徒の実態に応じた指導を工夫し、大学入試に対応できる学力を着実に育成する。
○３年次では、生徒の進路選択に応じた個別指導や補充学習ができるよう全教職員による指導体制を整える。
○本校における従来のキャリア教育を検証し、生徒の成長を図る実効性のある指導プログラムや体制を整える。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(4)</td><td rowspan="2">特別活動

重点５</td><td>目標</td><td>【重点：①実践力・④発信力・⑤創造力・⑥自主性・⑦人間関係形成能力の育成】
・生徒会活動や学校行事の企画・運営に、生徒会や委員会などが連携して組織的に取り組むことにより、生徒の自主的活動の活性化を図るとともに、より良い学校生活を築こうとする実践的な態度を育てる。
・生徒が主体的に取り組むボランティア活動の機会を多く設け、人間的な成長を図るとともに社会参加に積極的に関わる姿勢を培う。</td></tr>
<tr><td>計画</td><td>〈特別活動〉
○<u>生徒会執行部と各委員会・クラス・部活動が連携して活動を企画し、組織として生徒会活動をより活性化させる</u>ことで、生徒会の企画力や実行力を高め、全校生徒の所属意識や達成感を向上させる。
○校外清掃活動や地域行事への参加など、<u>ボランティア活動に関する情報を多く発信し参加機会を増やす</u>。</td></tr>
</table>

（様式３）

５　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度　小杉高校アクションプラン　　－　１　－	
①重点項目	学習活動（学びに向かう生徒の育成）
②重点課題	主体的・対話的で深い学びを引き出す授業改善に向けた生徒・教員への支援
③現　　状	・主体的、対話的で深い学びを引き出すため、ICT 機器の活用促進や公開授業研究会による研究・協議を通した授業改善に継続的に取り組んでいる。 ・ICT 機器を教員・生徒が授業や評価で有効に活用できるよう、校内研修等を通じて情報・ICT 教育係が活用方法に関する支援をきめ細かく行っている。 ・新課程学習指導要領に伴う観点別評価への対応は、実施方法の適正な在り方について研究を継続・進展させている。
④達成目標	・生徒…授業に臨む姿勢(主体的な学習態度)や家庭学習のやり方についての自己評価に向上が見られたか。(年度比較・学期比較) ・教員…ICT機器の活用度と観点別評価の対応について各自の授業力改善に向上が見られたか。(年度比較・学期比較)
⑤方　　策	・学期毎の学習診断シートを Form で行うことにより、集計結果(年間 5 回)を担任が面談等で迅速に活用できるようにする。 ・昨年に引き続き授業改善の取り組みに関連し、①ICT 機器の活用 ②観点別評価への対応 について教員の自己評価を向上させる。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

令和5年度　小杉高校アクションプラン　　－　２　－	
①重点項目	学校生活（生徒指導）
②重点課題	社会生活の基盤となる基本的生活習慣の確立
現　　状	・地元の中学校からの入学者が半数程度いるが、県内の広い地域からの生徒で構成されている。 ・女子生徒が全校生徒の約７５％を占め、生徒の多くは、穏やかで素直な生徒が多い。 ・生徒の中には教職員にしっかりと挨拶ができない者がいる。また、挨拶を交わしても声が小さかったり、うなずくだけの生徒も多くいる。 ・時間厳守、服装など、指導を要する生徒が一部見られる。 ・天候や環境等の変動を踏まえて、余裕をもった主体的な行動がとれず時間を守れない生徒も見られる。
④達成目標	毎日、来校者や教職員、友人と自ら気軽に挨拶を交わせた生徒の割合
	８０％以上
⑤方　　策	・全教職員が一体となり、生徒指導上の問題や課題の解決、改善に向けてしっかりと取り組むとともに、学校全体としてルールやマナー等を守ろうとする機運を高める。 ・毎朝、生徒指導主事等が生徒玄関において生徒の登校指導を行い、挨拶、服装、時間厳守等を呼びかける。 ・挨拶に関するアンケート調査を行い、実態把握に努めるとともに、改善点を明確にし、自ら挨拶を交わすことができる生徒を育成していく。 ・生徒会執行部と自律委員会が中心となり、適宜、朝の挨拶週間を設けるなど、主体的な活動を充実させる。 ・元気な挨拶については、生徒会執行部や自律委員会が全校生徒に向け、提案や啓発活動を行い、生徒自らが元気な挨拶ができるよう意識を高めさせる環境づくりを積極的に行っていく。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

令和5年度　小杉高校アクションプラン　　－　３　－	
①重点項目	学校生活（保健指導）
②重点課題	基本的生活習慣の確立と生活時間の自己管理力向上
③現　　状	・自分自身の健康自己管理は生涯にわたって必要であり、生活習慣を見直す機会となっている健康セルフチェックでも生徒が各自自分の生活習慣や時間の使い方について見直し改善する意識は高くなっているが、特に休み明けに睡眠不足や欠食などで体調を崩し、欠席したり保健室を訪れる生徒が増える傾向にある。 ・新型コロナウイルス感染症が５類に移行し、今後は今まで以上に自己の体調に関しての自己決定・自己管理が必要となってくるので、自主的に健康管理をコントロールすることの重要性を認識させたい。
④達成目標	・毎朝健康観察記録を行い、基本的な感染対策を含む体調管理を意識して取り組むことができるとともに、健康的な生活を目指し、健康的な生活の基本である「早寝、早起き、朝ご飯」の定着や生活時間の適切な使い方を意識させる。
⑤方　　策	・毎日の健康観察を通して自分の体調を常に自己管理できるように促す。 ・定期的に健康セルフチェック強化週間を設け、アンケートを通して自己評価を行うとともに体調の自己管理や、生活習慣と時間の使い方改善の意識を高める。 ・学校保健委員会や健康講話、保健だよりを通して生活習慣の重要性や時間の使い方について考える機会を増やし、学校と家庭の連携に努める。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

令和5年度　小杉高校アクションプラン　　－　４　－			
①重点項目	進路・キャリア支援		
②重点課題	３年間を見通したキャリア教育の推進と進路実現		
③現　　状	・具体的な進路目標のない生徒や将来やりたいことがわからない生徒がいる。具体的な進路目標が定まっていても自主的、意欲的に学習に取り組まず、学力不足のまま入試をむかえる生徒も見られる。 ・自己管理のための「手帳」は３学年になると活用頻度が増えるが、１、２年生は活用しきれていない。		
④達成目標	１・２年生 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」が、系列選択や自分の生き方・考え方などの参考となったと考える生徒の割合	３年生 進路決定先に満足している生徒の割合	全学年 高校生活を過ごす上で手帳を活用できたと考える生徒の割合
	８５％以上	８０％以上	６０％以上
⑤方　　策	・３年間を見通したキャリア教育を計画的、継続的に行い、職業観や就業観を育み、進路意識の向上をはかる。 ・継続的な個別面談を行い、早期に進路目標を設定したり、学習意欲を喚起したりする。小杉高校ＧＰ自己評価を行い、その結果を個人面談や進路指導に活かすことで、多様な生徒の進路実現につなげる。 ・生徒が「手帳」をより身近なものとして学習活動に活用できるよう、各教員が日常的に働きかける。自分のスケジュールを管理し行動を振り返る習慣を身に付けさせることにより、自ら学び主体的に行動できる生徒を育成し、生徒の進路実現を目指す。また、タブレットＰＣ等のデジタルツールの効果的な活用方法を探る。		

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

<table>
<tr><th colspan="3">令和5年度　小杉高校アクションプラン　　－　5　－</th></tr>
<tr><td>①重点項目</td><td colspan="2">特別活動</td></tr>
<tr><td>②重点課題</td><td colspan="2">特別活動やボランティア活動など生徒の自主的な活動の充実</td></tr>
<tr><td>③現　　状</td><td colspan="2">・学校行事やホームルーム活動、委員会活動において生徒会役員やクラス委員を中心に新たな企画の提案や取り組みを意欲的に行っており、主体的に活動する機会が増えている。
・部活動やボランティア活動に熱心な生徒がいる一方で、特別活動が学校生活を充実させたという意識が低い生徒が１割以上いる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">④達成目標</td><td>学校行事や各種特別活動に自主的に取り組み、自己達成感を持つ生徒の割合</td><td>学校生活を充実したものにするために、実際に行動したことがある生徒の割合</td></tr>
<tr><td>９０％以上</td><td>９０％以上</td></tr>
<tr><td>⑤方　　策</td><td colspan="2">・生徒会執行部と各委員会・クラス・部活動などが連携して活動を企画し、組織としての生徒会活動をより活性化させ、生徒の参加意欲を高める。また、体育大会、学校祭等学校行事では「一人一役」とし、役割意識を高めるとともにリーダー育成に努める。
・部活動に関する問題点を洗い出し、自主的な運営方法など改善策について検討する。
・校外清掃活動や地域行事への参加など生徒が人々の役に立ち喜ばれる機会を設けるとともに、ボランティア活動に関する情報をできる限り発信し参加する機会を増やす。</td></tr>
</table>

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）